

水源環境賞

水との関わり

私たちにとって水は、生活に必要不可欠なものである。顔を洗ったり、喉を潤したりなど日常のあらゆる場面で水が使われる。

しかし、私たちはそれを当たり前だと考えている。その水はどこから来たのか、誰がどのようにして水を綺麗にしているのか、知らないことがたくさんある。

最近降水量が少なく、ダム貯水率が例年以下となっている。そして、貯水率が〇パーセントになってしまったダムもあるということを知った。少し気になり、私の普段使っている水はどこから来ているのか。また、そのダムの貯水率は今どうなっているのかを調べた。すると、そのダムの貯水率は約三十から四十パーセント程度で推移しており、通常の年と比べて大幅に低下してしまっていることを知った。

また、このダムは、私が住んでいる県の約三分の二に供給されていて、貴重な水源となっていることが分かった。

だが、渇水の影響で水が使えなくなってしまうことはなく、地域の自治体で節水などの呼びかけを行っているところも見ることがない。だから、水が例年より少なく、不足しているという実感はあまり湧かない。

先日、総合的な学習の時間で講演してくださったオスマン・サンコンさんの出身国であるギニアなどの西アフリカは降水量が非常に少ないと仰っていた。そこで、水が不足しているギニアなど、西アフリカの国々における水との関わりについて調べた。

西アフリカ諸国では、国にもよるが、都市部でも上下水道が整備されていないところもあり、上水道が整備されていても、水質管理は良い状態とはいえない。地方では川の水や井戸水を使用しているところがある。川に水を汲みに行くのは、主に女性や子供が毎日数キロ歩いて行っている。しかし、川などは衛生環境が悪いところが多く、安全な水へのアクセスが制限されている。そのため、多くの人々が汚染された水を飲まざるを得ない状況にある。不衛生な水の中には、メジナ虫という寄生虫がいることがあり、この虫を病原体とした感染症もあるらしい。また、エボラ出血熱という感染症が二〇一四年に西アフリカで流行し、一万人以上が死亡した。患者の血液体液に直接触れることで感染し、水場の汚染が感染拡大の要因となった。

このように、西アフリカでは毎日早い時間から川に水を汲みに行き、生きるために汚染された水を飲んでいいる。また、汚染された水による感染症は多く存在し、いつかかってもおかしくない状況にあるということが分かった。

それに比べると、日本の水は世界トップレベルの厳しい水質基準と、山間部から流れる良質な水源、そして効率的な浄水・配水インフラによって非常に綺麗で安全である。水道普及率は九十八パーセントを超え、蛇口から直接飲める貴重な国の一つとなっている。このように、いつでも綺麗で安全な水を使えることは当たり前ではない。そして、他国と比べてもとても恵まれていることが分かる。また、水は大切な限りある資源であり、地球温暖化による干ばつなどの様々な課題に取り組むために、節水などを行って無駄遣いをなくし、効率的に使っていく必要がある。